

授業科目名	【G】 【EF】	教育課程論 教育課程論	区分	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目						
授業形態	対面授業						
担当形態	単独	【G】 【EF】	教員の免許状取得のための必修科目 教員の免許状取得のための必修科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)						
サブタイトル	教育課程を計画し実践する			担当者	小松 伸之		
授業概要	【概要】	教育課程とは、ラテン語のcursum を語源にもつカリキュラムの訳語であり、教育目標に即して児童生徒の学習を指導するために、学校が文化遺産の中から選択して計画的・組織的に編成して課する教育内容の全体計画を意味する。本講義では、カリキュラムの概念史、原理、構成を中心に学習する。					
	【到達目標】	①学習指導要領に準拠しながら教育課程を計画し、実践する方法を総括的に体得すること。②教育課程の意義、編成の方法を理解し、学校に応じたカリキュラム・マネジメントをおこなう意義を理解する。					
履修条件	教育原理、教職論の単位認定者を前提とする。						
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	— (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	— (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)					
他科目との関連性	教育原理、教職論、教育心理学						
教科書	『社会の教育システム』東京大学出版会。						
参考書	『教育思想史事典』勁草書房。						
評価方法	授業中に複数回行なう小テスト(90%)、受講意欲・態度(10%)で評価する。						
フィードバック方法	オンラインの場合は、レポート返却の時個別にコメントし、全員に模範解答を返却する。対面の場合は、毎回授業終了前にチェックテストをおこない、回答後解説する。						
評価基準	S・A: 授業内容をよく理解しており、応用力もある、B: 授業内容を理解している、C: 最低限の基礎力を備えている、D: 基礎力が不足している、E: 基礎力が著しく不足している、F: 評価不能。						
その他	授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。						

授業科目名	【G】	教育課程論	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【EF】	教育課程論			【EF】2		【EF】2
授業回数	授業内容						
1	学校教育における教育課程の意義 --- 教育課程とは何か 予習: 教育課程の意味を調べる。 復習: 内容をキーワード化する。						
2	教育課程の歴史の変遷 予習: アメリカのカリキュラム史を調べる。 復習: 広くアメリカ教育史として理解する。						
3	教科カリキュラムと経験カリキュラム 予習: 教科、経験について考える。 復習: 経験カリキュラムとデューイの関係を理解する。						
4	学問中心カリキュラムと人間中心カリキュラム 予習: 人間中心とはどんな内容を調べる。 復習: 学問、人間の両側面からカリキュラムを再考する。						
5	学問、人間の両側面からカリキュラムを再考する。 予習: 教育課程編成の基本を整理する。 復習: 整理した内容をまとめておく。						
6	教育課程編成の方法① --- 教科・相関・融合カリキュラム 予習: 相関、融合の差異を確認する。 復習: 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を理解する。						
7	教育課程編成の方法② --- コア・経験カリキュラム 予習: コアカリキュラムを調べる。 復習: 教育課程、指導計画を検討する重要性を理解する。						
8	カリキュラム・マネジメント① --- 教育課程編成の主体と原則 予習: カリキュラム・マネジメントについて理解する。 復習: 編成した内容をまとめる。						
9	カリキュラム・マネジメント② --- 教育課程の編成と基準 予習: カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。 復習: 具体的な評価基準を認識する。						
10	教育課程編成の特例 予習: 特例を調べる。 復習: なぜ特例があるか考える。						
11	複式学級・特殊学級・通級による指導の場合 予習: 特別支援学校のカリキュラムを調べる。 復習: その「特異性」を認識する。						
12	重複障害者の教育・訪問教育の場合 予習: 障害者教育のカリキュラムを調べる。 復習: さまざまなカリキュラムを類型化する。						
13	教育課程と評価 予習: 評価について考える。 復習: 具体的に評価してみる。						
14	評価の基本的な枠組み 予習: 枠組みを理解する。 復習: 応用した評価をおこなってみる。						
15	学校評価の現状 予習: カリキュラムと評価の関係を把握する。 復習: カリキュラムについて再考する。						